

2-4 SDGs と ESG 投資

2015年に GPIF が責任投資原則 (PRI) に署名したことをきっかけに、日本では ESG 投資に大きな関心が集まった。さらに 2015 年には国連総会で「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」が採択され、日本政府も持続可能な開発目標、いわゆる SDGs への取り組みを表明した。ESG 投資は、将来の持続可能な社会の実現に向けての課題、環境、社会、ガバナンスの三点から整理したものである。SDGs も、持続可能な社会に向けた開発目標を 17 の観点から網羅的に整理したものである。ESG 投資には国際標準となるターゲットや指標がないため、単純に SDGs と対照することはできない。だが、ジェンダー、人権、地球温暖化、生物多様性など、両方で焦点となっている事項には一致する部分が多い。日本政府が作成した「SDGs アクションプラン 2018」の中でも、SDGs は官民のパートナーシップをもとに達成されるべき目標と解釈されている。民間企業側も、SDGs の目標、ターゲットへの貢献を示すことで、ESG 投資が求める情報開示に対応しているように見える。

しかしながら SDGs は、もともと 2000 年から 2015 年までのミレニアム開発目標 (MDGs) の後継として作られたものであり、開発途上国の開発目標・ターゲットを整理したという側面が多い。テーマによっては先進国側の目標・ターゲットもあるが、それでも国単位の目標・ターゲットとして示されていることが大半である。特に成果指標については、原則として国単位のパフォーマンスを測るものであり、そのまま企業が採用できるものではない。企業が SDGs を有意義に活用するのであれば、もともと国家の目標である SDGs を企業の目標に読み替えて、かつ適切な成果指標を提案してゆく作業が必要である¹。

GPIF は ESG 投資と SDGs との関係を次のように整理している (下図参照)。まず ESG 投資も SDGs も持続可能な社会の実現に向けて、社会的な課題の解決を意図しているものと解釈される。SDGs は企業に対するメッセージである。企業はこれに賛同して、社会・経済的な課題の解決につながる「共有価値の創造(CSV: Creating Shared Value)」に取り組むことができる。こうした課題に取り組むことは、大きな事業機会を生むことにもつながる。SDGs への貢献を通じて、企業価値の向上を実現することができる。

一方、投資家側は SDGs に取り組む企業を、ESG という観点で支援することができる。ESG の各側面でパフォーマンスが優れた企業は、中長期的な価値向上が見込まれ、確実なリターンが期待できる。ESG の観点に基づくことで、投資家側 (GPIF) にとっての投資機会は増大することとなる。

SDGs と ESG 投資の関係には定説がない。GPIF の整理は一つの見方であり、他にも様々な考え方がある。だが、SDGs は企業にとって事業機会を増やすもの、ESG 投資は投資家側にとって投資機会を増やすものという整理は、単純でわかりやすい。

¹ 国連グローバルコンパクトと GRI は、企業向けに SDGs の成果指標を作り替える作業を進めている。その成果の一つとして” Business Reporting on the SDGs, An Analysis of the Goals and Targets “が 2017 年に刊行された。

図： GPIF による ESG 投資と SDGs との関係の整理



出所： <http://www.gpif.go.jp/operation/esg.html>

SDGs への取り組みがもたらす事業機会については、様々な提案がある。その中で代表的なものは、国連グローバルコンパクトと KPMG が 2016 年に取りまとめた「SDG Industry Matrix - 産業別 SDG 手引き²」である。SDGs 達成に向けた共有価値創造 (CSV) の機会を、目標ごとに解説し、世界各地の企業の事例を示している。製造業、エネルギー・天然資源・化学、食品・飲料・消費財、金融サービスなど、業種ごとに解説と事例が整理されている。SDGs の事業機会について代表的なものは下表のとおりである。SDGs の対象は広範囲の開発課題であり、事業機会についても多種多様なものが提示されている。

表：SDGs への取り組みがもたらす事業機会

SDGs 目標	企業活動による社会・経済開発への貢献のパターン
目標 1 (貧困緩和)	マイクロファイナンス
目標 2 (飢餓撲滅)	栄養強化食品、小規模農家からの調達、天候インデックス保険
目標 3 (健康・福祉)	簡易医療器具、包装容器表示を通じた健康啓発、低所得者用健康保険
目標 4 (教育)	職訓・技術教育プログラム、遠隔教育、金融リタラシー
目標 5 (ジェンダー)	低所得者向け避妊具・生理用品開発と販売網構築、マイクロファイナンス
目標 6 (水・衛生)	低所得者向け簡易ポンプ・濾過器、節水型トイレ
目標 7 (エネルギー)	未電化地域向けソーラーシステム。

² 日本語版は国連グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパンのサイトからダウンロードできる。 <http://www.ungc.jn.org/sdgs/index.html>

目標 8 (経済成長と雇用)	中小零細企業からの調達、若年層のインターンシップ
目標 9 (産業、技術革新)	中小零細企業向けの金融サービス
目標 10 (不平等是正)	移民送金手数料引き下げ、障害者雇用
目標 11 (持続可能な都市)	低所得者用住宅、災害に強靱な街づくり
目標 12 (生産と消費)	食品ロス削減、クローズド・ループ・システム
目標 13 (気候変動)	災害保険スキーム、災害早期警戒システム
目標 14 (海洋資源)	海洋プラスチック廃棄物リサイクル、生活排水場の改修
目標 15 (陸上資源)	鉱山開発の際の山地生態系保全、紙利用の削減
目標 16 (平和と公正)	腐敗の撲滅。
目標 17 (実施手段)	バリューチェーン上、および市民社会と行政とのパートナーシップ

出所：SDG Industry Matrix を元に筆者作成